

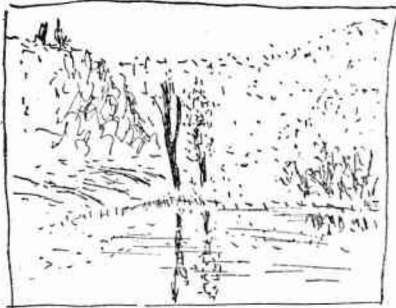
紫

筍



文京高校同窓会報 No.3





## 紫 筍

### No. 3 目 次

御 挨拶	稲崎 脩平(2)
孫 と 私	奥田 行信(3)
全会員に訴う	静谷 晴夫(4)
<b>特集・あれから</b>	
憧れの美校へ	小椋 昭三(6)
私の職場	坪井 光子(7)
療養無頼	菊地 達長(8)
間違えた道	相倉 久八(9)
公務員心得	篠田 明夫(9)
美容師気質	星野 洋子(11)
いちばん楽しいとき	近藤恵美子(12)
社会科一年生	増田 邦彦(15)
会則改正にあたって	皆 葉 賢(16)
グラフ 母校だより	(17)

#### — 十 字 路 —

川 島 源 司(21)	榎 本 幸 三(21)	黒 沢 隆 朝(21)
山 田 昭 捷(22)	吉 田 徳 重(22)	諸 富 泰 男(23)
山 下 雅 巳(23)	横 沢 靖 夫(23)	皆 葉 賢(23)
新 井 洋 子(24)	秋 元 精 一(24)	佐 藤 真 悟(24)
唐 沢 勝 敏(25)	佐 藤 智 昭(26)	関 根 秀 次(26)
太 田 敏 夫(27)	森 理(27)	ひらきともひこ(27)
山 名 武 明(27)	井 上 謙 治(27)	高 橋 忠 正(28)
長 島 弘 一(28)	鈴 木 時 亮(28)	西 川 仁(29)

会 則	(31)	会 計 報 告	(32)
編 集 後 記			(33)

御 挨拶

稲 崎 脩 平



脈々として、連続する学校という生命体の一機構をになうものとして、職責の重大さを感じ感ずるのですが、また一面、学校は温い友情を基盤として、文化的思慕の中に、生の充実を見出そうとする共同体ですから、ここに生を共にするものは、おのづから、強い精神的紐帯によって、結ばれているので、わたしは職責という義務感よりは、むしろ、生徒ならびに同窓生諸君に対して、深い親愛の情を先づ感ずるのであります。師といい弟というも、等しく真理を志向し探求するところの同行者ですから、両者は深い友情で結ばれねばなりません。かような意味において、両者の関係は、在学期間で終を告げるものでなく、卒業後も長く真理の愛好者として、これを持続してゆくべきものと思えます。

母校に対する愛情は、自己の生を尊重し、自己の充実を期せんとする人間感情の自然の発露です。殻を出て、それを単に客観的に眺めることなく、殻そのものを自己そのものとみて、限りない愛情をそこに寄せられることを切に希望いたします。

本校も創生記時代は過ぎたが、環境整備については、まだ多くのなすべきことがあります。名実ともにモデルスクールにふさわしい教育内容と教育環境とをもつことこそ、われわれの努力の目標であり、それに到達する日の決して遠くないことを信じて疑いません。



## 孫 と 私

奥 田 一 行 信



創立当初から九十八年間同じ学校に勤めて六十才を迎え、後進に道を開くために、勸告を受けて、この三月退職する事が出来た事は嬉しくもあり又淋しくも感ずるのですが、ままならぬ浮世の事でまあまあ諦めが肝心かと思っております。それに三十一年の二月孫（息子の長男）が生れてからはうっかりすると学校に居ても孫の事をあれこれと考えて居る事が段々多くなつて来たよう、内心早く退職の時機が来ればよいがなあと云つた気持ちが多少あつたので寧ろ此度の勸告は私にとつては助け舟と云つた感じがなくてもなかつたのです。

何故そんなに孫が気になるのか一寸自分でも適確には突止められないのですが自分達の子供は、幼少の頃は、全く祖母の世話になりっぱなしで面当はみなかつたし、若くもあつたので夢中で生徒の方に全力を集中して来たので余り幼児の保育には関心がなかつたわけです。処が古い先が短くなつて来たので急に個性の發展を願う本能的慾望が強くなつて無性に孫の面当がみたくなつて来たのかもわかりません。それに直接手塩にかける事の少い教育はどうも本当のものにならないように思われて長い間苦しんで来たので一刻も早く自分の満足出来る楽しい境地を求めたためかも知れません。

兎に角学校を罷めてからは希望通り孫の保育に専念しておりますので文句なしに楽しい幸せな毎日を送つてはおりますが、仲々現実には容易な事ではなく、体力的にも精神的にも時間的にも全く余裕のない生活でつくづく自分のだらしなさを痛感しておるような次第で、呑気な隠居暮と云うわけには決して行かないのです。例えば朝の孫をつれての散歩にしても、五時前後に目を覚まして約一時間半、石神井池から三宝寺を廻つて帰つて来るので如何に鈍(30ページ上段につづく)

## 全會員に訴う

會長 靜 谷 晴 夫



わが文京高校同窓会の今回の第三号会報の発刊によって益々その発展の基礎を固めたと云えましょう。更に、今秋には奥田、稲崎両校長先生の観送迎会、現在の同窓会の全能力をふりしぼって完成に努めた新名簿の発行等とこれまで貯えに貯えられた努力が見事に実を結ぼうとしているのであります。

数年前まではあつても無きに等しい存在であつた同窓会が、わずか数名のみによつて必死に支えられてきた同窓会が、今では立派に生長し、他校のそれに比して決してひけを取らぬ程にまで発展してきたのであります。

一見、それはたしかに非常に華やかな、偉大なよころびであります。然し我々はそれを喜ぶ前に、その蔭にある同窓会の苦悩を知らなければなりません。同窓会を各人が再認識すること、それなくして真の発展はあり得ないと思ひます。華やかな活動の蔭に、どのような苦しみがあるのかを、それをこの機会に全會員に訴へたいと思ひます。

はつきり云うと現在の同窓会は、役員を含めて十名足らずの幹事と、年間三万円足らずの予算によつて運営されていきます。今年などは運営費がわずか一万円にも満たない有様です。人が足りない、金はない、然し活動は続けなければならぬ。これが現実であります。以下、それぞれについて説明してみます。

### 1、人が足りないことについて

人が足りないと言ふことは、とりもなおさず一般會員の同窓会に対する認識が不足だと云うことです。とにかく、各クラスに幹事が二名いる筈なのですが、全然音沙汰なし。幹事会の通知を出しても、幹事の委嘱もおねがいしても一切ノコメント。同じクラスの人に消息を聞いても、さあ知りませぬ。あたしは一人なんです。と云つた調子。

葉書を渡して、それにちよつと書き込んでポストに入れてくださいねと云つても、それすらも出来ない大多数の方々。勿論、それらの方々がすべて故意にそうしておられるとは思いません。ただ何となく面倒だ、暇がないからと云うのが大部分であらうと思います。

どうも同窓会の仕事と云うと敬遠され勝ちです。でも忙しいのは誰でも同じことです。我々にしたところで、決して暇があるからしている訳ではありません。仕事の都合をつけて、勉強やアルバイトの間に暇を作つて集つて居るのです。無論、報酬と云うことなど考えたこともありません。

ただ、それを誰かがしなければならぬから、同窓会のいろいろな活動はやはり意義あるものだから我々が行つてゐるに過ぎません。

会に対する認識が足りないことについては、我々も反省しなければなりません。金のないことを理由に、直接一般会員に呼びかけることに欠けていた点、幹事諸兄弟にあまり負担を掛けすぎていた点等であります。

## 2、金のないことについて

金がない、と云うといつても同窓会は金をとりにくるばかりでとお叱りの向もあるかと思ひますが事実金はないのです。現在、同窓生の数は約三千五百ですが、入会金がきちんと入る様になつたのはここ数年來のこととて、以前は殆ど収入がありませんでした。戦中戦後の不安定な情勢下では同窓会のことなどはあまり顧りみられなかつたのです。現在の入会金は三百円ですが、このうち八割は基金として将来に積立てなければならぬので、実際の運営に当てられる額は利息を加えても三万円に満たないのです。この枠の中で、年間三十回にのぼる各種会合（常任幹事会、編集会議、幹事会）等を開き、会報を発行するとなると、どう少く見積つても七万から八万の金は吹っ飛んでしまひます。

そこで止むを得ず寄附を仰ぐ、資金カンパをするなど云うことになり、郵送料を浮かすためにクラス幹事に配付してもらふことになる訳ですが、これが同窓会に幹事にばかり負担をかける、金ばかり集めてゐると云う苦情になる訳です。

まして全卒業生のクラスのうち半分は幹事が不明（連絡なし）と云つた実情なのですから推して知るべしであります。もつとも、入会金が安いと云うことも考えられます。（他校では大体五百円から千五百円の間です）が、この点については近いうちに検討されることになっております。

## 3、それでも同窓会は活動しなければならぬか

（30 ページ下段につづく）

## あれから

私達の同窓会も会員三、五〇〇名を数えるに育ちました。ここにその人達が社会人として活躍している近況を紹介いたします。

## 「憧れの美校へ」



## 小 椋 昭 三

日増しに太平洋戦争が激化してきた昭和十八年といえ、僕は二年生に在学し

ていた頃である。放課後、雑きんバケツの泥水を職員室の裏側の庭に捨てに入ったところ。塀のしげみに、キイチゴがなっていて、よくうれたその野性の味を生意気にも珍らしいもの思ったりした。

森田早稻先生(図書担当、卒業間際にはクラス担当でもあった)の画室?はその裏庭に面していたと思う。掃除当番の役目を終え画室のあちらこちらと興味深く物色したものだ。

今から思うと60号位のカンバスに塀をへだてた西洋館の古色蒼然たる建物が主題に描かれ、先生は苦心されたものか、いつ行ってもイーゼル(画架)にかけられた儘であった。そのうち僕は「新美術」という美術雑誌をみせて貰い、ゴヤ(スペインの画家)などはすぐ好きになった。当時、土曜日の午後または放課後数人の美術グループ(クラスでは小島、谷口氏ら)と油画の指導をうけていた。

少年期から青年期に移る目まじるしい中にあって、四年生に進んだときは画家になりたい気持で一杯だった。そして昭和二十年の初頭にはこっそり春日町の研究所に通うようになった。もうその時は東京の街にもいわし

い火の手があたり、春日町は高射砲の陣営で、デッサンを描きながらその壮絶たる轟きにふるえていた。研究生はいづれも上野の美術学校を志望していて一風変わった連中ばかりであった。高射砲が火をふくたびに研究所の屋根に砂塵がバラバラと降りギリシヤの英雄も女神の石ころ像もガタガタとゆれた。或る時には二、三人しかきていなかった。木炭を消す大事なパンの一切れを研究所の大先生が富永勝重先生から特別に貰い、何時もながら嘆息をつきながら石ころをにらまえていた。

その時サイレンがなって普段よりものすごい爆音と高射砲の轟きで、もう駄目かな、という恐怖のために生きた心地がなかった。僕は防空スズキンをしめなおし、二階の先生の居間にかけ上り、「先生、待避しましょう!」と叫んだ。だが、童顔の先生は迫まらず、ゆっくりした口調で「大丈夫、心配するな! まあ一茶でも飲んでゆけ」と汲んで下さった。

僕は恐る恐るおいしい茶をご馳走になって引下ったが、一瞬ポカンとしてしまいその中には、吹けば飛ぶような僕らの慌てようが全く恥しくなった。その当時の美校への一路バク進の想い出は忘れられない。美校の入試は

二月のうすら寒い日に行われ運よく(その通り)先輩浪人の研究生達に羨ましがられてパスした。明る年には一級上の吉野さんが入学してこれれ当時僕は麻布材木町に間貸りしていたが真剣な「美の追求」を語り合ったり、文通したりした。だが、僕はその年の春休みに田舎へ帰り秋には第十回自由美術家協会展に初入選して学校生活は次第に色あせてしまった。

(筆者東美中退自由美術展三回入選、昭和二十四年個展開く)

(昭和二十年卒・旧二期)

## 「私の職場」

坪井光子



七月の暑い日ざしに、玉の汗を流しせわしく行ききする人々の群、何回目かの中元期がやってきました。近代的な巨大なビル、その名はデパート。私はこのビルで多忙な一日、ともすれば働くものの喜びに生きがいを感じ、日々を過します。

ジーンツ鳴る開店のベル、店内

に流れる美しいメロディーその中にレジの音が次第に鳴り響き、一人の販売員の活動が始まります。一人のふとした油断から、お客様の苦情も持ちこまれ、ひいては百貨店の名声にもひびく結果となるの

で、細心の注意をひと知れぬ心づかいが学生時代とは違った現実社会の試験に耐えて行く私達百貨店人にとっての日課の連続なのです。

御中元御歳暮と忙しく働き、私達の努力が予算をオーバーした時、大入袋が私達を喜ばしてくれました。金額の高ではなく、働く人々の勤労の結果、よい成績をもたらしたという実社会に出た人のだれしも味う喜びでしょうが、私達の職場では結果がこうしてわかります。それはそれは忙しい時間延長が続きます。こうした中元期を終えた夏の休暇は、私達にとって最高の喜びです。学生時代のグループが集まる時私達は職場を離れ、青春を思い切り謳歌すれば限りない自然はこれにこたえてくれるのです。山中湖にある高島屋高原寮、其の他の施設は私達に与えられた憩いの場所でもあるのです。又異国情緒豊かな碧い目のお客様、世界的な芸術家、そして先日行われたアジア大会オリリンピック選手などが現われ私達の緊張した気分をはごらしていきます。

私達の行くところどこにでも、社会の目が社会人としての私達をみつめている。私達も又高島屋人としての誇りと自尊心とをきづつけぬ様、己の心を磨き教養を高めながらも、やがては家庭人となる日を夢みるのです。

社会生活に起りがちな、ふとした言葉のもつれから感情の大きな摩擦が起ります。特に百貨店に於いては、言葉の使い方に、気を使い、教育を受け、よきセールスマンが生まれて行きます。私が、「百貨店の店員と言葉について」NHK言葉の研究室の座談会に出席した際如何に言葉の使い方が私達にとって大切であるかを痛感しました。

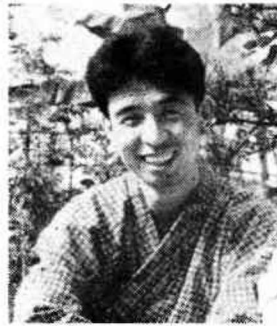
昼は昼、冷房のきいた、人工光の下で、大いに働き夜は夜、閉店後のわずかな時間を、お稽古ごとに力を入れる。楽しき休日、太陽と親しみ、喜びも苦しみも、お客様と共に味い私達の職場が明るく楽し

くあって欲しいと祈りながら、私達の心のこもったサービスは続けられていきます。

(昭二十八年卒・新制五期)

## 「療養無頼」

菊地 達長



娑婆と呼ばれる健康人の社会から隔離されてすでに十ヶ月、療養生活も板につき療養無頼と称されるまでに成長、病院内をのし歩いている。//貴重な体験//という言葉によって娑婆からの落伍を自ら慰めている生活は肉体的には楽であって精神的には苦痛である。

入院当時は、病気に對する不安、将来の事、その他色々考えて、長い秋の夜を遂に曉まで寝れずに過してしまふことも度々であった。暁のそぞろしきりに虫の啼く

新婚の友の便りや小六月

舟橋君が新婚旅行先より見舞状、元気な奴が羨ましい。あせりが出てくる。

なにがしの自嘲はあれど春用意

静臥の毎日を送っていても年の暮はやってくる。娑婆では連日忘年会で忙しいことであろう。しかし俺には関係ないのだ。安静を中心に

した毎日が過ぎるのみ。

去年今年病舎のにはひvariなく

女患は化粧し、見舞客も華やいでいるので病院内も何となく正月の雰囲気だだよっているが、病室のいやな臭さはそのまま。

早梅のありて荒びし庭支う

早梅が一、二輪咲いている。霜枯れの庭の片隅ではあるが、何か希望をもたらせてくれる。生への執着、自然の力の強さを感じる。

忘れたきこと思いつく春を病む

陽も明るくなり、時折南風も吹くようになり、娑婆の事など考えているうち、にがい思い出にぶつかってしまった。

枕辺は土筆が一本転っている

作業療法の者が、土筆を持ってきてくれた。土筆のある原へ出て方がいいあばれたい。

遠慮なく大きな欠伸菖蒲の日

療養生活も馴れると共に、飽きぐる。病院の近所には鯉のぼりふきながしが緑の中に色どりを添えている。

たまさかは母へも便り夏に入る

段々と筆不精になってしまう。家への通信も近頃では怠け勝ち。母はどうしているだろうか。

田を植える笠の内なる水明り

蛙が鳴き始めたと思ったら田植えの時季になっている。屋上から眺める田植風景、健康そのものに見える。あの重労働に耐え得る体力、全くうらやましい。

夕焼や疲れし顔の飯食める

朝からの強い日照りで、ぜい沢な話だが、寝ているのも楽ではなく

なる。大夕焼に照らし出されて暑さに疲れ療養に疲れた顔が食事をして  
いる。

下手な俳句を並べて療養生活を振り返ってみたが、療養所内の娑婆  
の羨望は激しいものがある。健康なくて何の人生ぞ。若い世代が長い  
療養生活など味わぬよう呉々も健康に留意して生活すべきである。蓋  
し病者のたわごとか。社会への早期復帰を念じつつ。

(昭二十三年卒・旧四期)

## 「間違えた道」

相 倉 久 八

人間は道を間違えることがある。それが悪いとか非道德的だなどと  
云うのではない。彼は道を間違えたのである。彼は沙漠の中を歩いて  
いる。孤独である。私は往々そのような人間の中により多くの美と真  
実を見出せるような気がしてならない。そう考えるのは私の異常な感  
覚の為かもしれないが、彼等こそ本道を歩いているような気もする。

自分がまだ若いにもかかわらず同じ年齢層の人々に対して残念なが  
ら疑問を持ち始めたことを疑えない。現代青年がハードボイルド小説  
的な冷情的行動家と見られやすいが、その中には、立原道造の詩やシ  
ュトルムの清潔すぎる作品に感激するような感傷家が以外に多く存在  
するのは、青年層の二重性ではないだろうか。私にはどちらも空虚に  
おもわれてならないのであるが。

私はかつてアメリカの地味な孤独な作家ウイリアムフォークナーの  
次の文にひどく感動したものである。

「作家であるためには、人はまず第一に本来の自分、生まれ持った自  
分でなければならぬ。アメリカ人であって且つ作家であるために  
は、因襲的なアメリカのイメージに心にもない忠勤を尽すことはかな  
らずしも必要ではないこと。」(これはある邦訳の解説からの引用であ  
る。)

これは作家にだけ通用するのではない。あらゆる場合において「人  
はまず第一に本来の自分、生まれ持った自分でなければならぬ」の  
ではないだろうか。これは「失われた世代」の言葉ではなく、「永遠」  
の言葉である。

私は道を間違えた。私はどうしても私の同輩と意見を同じくし、行  
動を共にすることが出来ないのだ。現代青年のイメージに心にもない  
同情を寄せることはかならずしも必要ではないだろうかと考える時。

(同窓会幹事の役も誰か代りがいれば、喜んで譲渡したい。)

(昭三十三年卒・新十期)

## 「公務員心得」

篠 田 明 夫

僕は文京高校卒業間際にノイローゼにかかり、卒業後も暫くの間家  
でブラブラしていたが、家の方の経済事情やら、何にもせずいたずら  
に気をくさらしているより何にか一定の職を持っている方が病気の回  
復も早いということで、知人の紹介により神奈川県に所在する或る研  
究所の庶務課に勤務するようになった。本稿では、当地での僕の人生  
経験を書く様指定されているが、初勤務でもあり、又病気だったせい

もあって、僕の公務員生活は最初からさんざんのでいたらくで、冷汗と苦汁を共なわずには思い出せない。

当研究所は農業分野に於て、日本でも有数の研究施設と研究陣を誇っており、それを取巻く自然環境もめちゃな観光地よりも数段秀れて風光明媚であり、そこで働いている人間もしごくのんびりとして、幾分保守的である。所外の人達には、仕事が山程あっても、ゆっくりと時間をかけて仕事しているのがおろよろに見えたり上品に見えたりするらしいが、実は、これこそ官庁特有の風景である。僕の給料は安かった。全く敷かわしいくらい安かった。そのかわり、宿舍だけは上等でなかったが完備されていた。だから所得が少なくても所内に住めば割合樂に生活が出来た。僕も着任早々古ぼけているが頑丈な寮の一部屋に住みついた。さあ、これでまず安心、これからは人並に大過なく過していれば決して誠になる心配はない。ほんのまれに国家の緊縮財政のため定期昇給が一時停止することがあっても、勤務年数に応じて昇額してゆく。そして今後奇抜なことには一さい手を出さず、上役にはあくまで忠実に、出入業者には權威を保ちながら接し、定年まで勤務していれば恩給がつく。成程、官吏も悪くはないと思った。ただ、非常に残念だったのは、定年まで勤務しても現在の給与体制では絶対に三万以上の俸給は貰えないだろうということ、どんなに熱心に働いても、どんなに責任感と義務感が強かろうと、どんなに創意に満ちた勤務振りを示しても、せいぜい庶務係長か庶務課長止りであるというところを、入所早々観念しなければならなかったことだ。それ以上の役を望もうとすれば、どうしても旧帝大系大卒、それも大抵の場合大を出ていなければならぬ。このことは殆ど絶対的条件と言ってもいい。しかし庶務課長の地位はうまく立廻れば、比較的容易に獲得出

きよう。うまく立廻るとは、必ずしも事務処理に有能になる必要はない。むしろ対人関係が重要なのだ。どうしたら上役の氣に入られ、親しくなれるかが問題なのだ。僕はすぐマージャンが頭に浮んだ。マージャンくらい上役と接するに有効な手段はない。偉い連中は殆んど例外なくマージャンが好きだ。だから役所に於て何かと言えばマージャン台が用意される。当地に偉い人達が来てもマージャン大会が催されるがこれお互に好都合なことからしい。そういう訳だから、マージャンが得意であることが所内に知れわたってれば、それが出来ない人達とか、不得意な人達より、ずっと多く上役の人と接する機会があらうというもの。幸い役所は毎日暇である。僕は熱心にマージャンの練習を初めた。勤務中であらうと、マージャンのことで頭が一杯になるくらい熱中した。時折は、机の上に積んである書類の陰で、こっそりマージャンの指導書を開いたものだ。そして退所時間になると手際よく仕事の跡片付けをすましてしまう。変に居残って仕事をしていると同僚から嘲笑や、悪口を言われたりする。但し、会計検査の前日には、どんなに都合が悪くても役所に居残ってはいなくてはならない。これは我が役所の通例であり何人も破ってはならないのだ。要するに役所では、人並のことをしていればいいのであって、それ以上のことをしようなどと野心を起してはならない。そのことをよくのみこんでいるかいないかが、役所に於て、自分の有利な地位を獲得出来るかどうかの鍵である。労働組合員でありながら出来る文組合活動から身をさけたのも、すべて僕の利己的判断に基づいていたからだった。かくして結果は良々、僕は何事にも先走らず、毎日をおろよろに、幾分すべてを諦め切ったような風をよそおいながら、実は内心で、絶えず同僚と上役に氣を配りながら出世という順風に乘っていた。ところが、僕



は実に軽卒なことを一つやらかしてしまつた。というのは、僕が同じ職場で働いている若い女の子に恋をしてしまつたのである。その子は部長のお気に入りであつた上に、美人でとても愛くるしかった。だから所内の若者はこぞって彼女に熱を上げるのだが、相手にはさっぱり通じなかつたらしい。それがどういふ廻り持ちか、僕と彼女はすっかり恋仲になつてしまつた。そうなるを得たいものを得たという喜びも重なつて僕は恋に夢中になり冷静を失つてしまつた。だから僕と彼女の間に取わかされた極秘の恋愛もまたたく間に所内中に知れわたつてしまつた。するとどうであらう、僕の周囲はたちまちよそよそしくなり始めた。所内いたるところ喧々ごうごう。非難の俎上には、僕のあるとあらゆる欠点が引き出された。お陰で僕は自分の欠点を勞せず、教えられたことを今もって感謝しているのだが。

最も愚劣であるが最も露骨だつた非難は「恋愛するには年が若すぎるといふことであつた。これには僕も少々腹が立つた。僕は二十五才。彼女は十九才。どこが一体若いのだろう。だが僕には理解出来た。僕が悪口三昧をあげせかけられたのは、僕がねたましかりたり憎かつたりしたからだ。しかし、それを明らかに表わしたりするには少々教養がありすぎる。幸い、恋愛するには年が若すぎると言へば大部分の人が一応は納得するし、相手にも上品に聞えるというものだ。ともかく、上役には不興がられ、同僚からは冷い眼で見られるので、僕も氣まずい思いをしなければならなかつたので、ついに辞職願を庶務課長に提出して退職した。小人閑きよにして嫉妬強しとはこの様なことを言うのだなと得心がいった。

(昭二十九年卒・新制六期)

## 「美容師氣質」

星野 洋子



文京を卒え、ただ夢中で美容学校、インターン、国家試験と、あつたらしい日を送り、やっと美容師としての免許を得てひと息ついた今、美容師の世界というものを振り返つて、その職業の近代的な内容に反し、そこに働く人々の考えのあまりに旧いものには、つくづく驚いてしまいました。美容界とは実に矛盾した所です。ここではないに封建的な家族制度に縛られ、店の中も上下の差がはっきりと区別され、下の者はたえず上の者から圧迫されながらも、丁度木に桃栗三年柿八年と果実の実るのを計算する様に、あと半年すれば……等と自分の望みだけをたよりに、美容とは縁遠い掃除や洗濯に走りまわっています。数年前からは学校制にはなりましたが、上に立つ人は今迄の旧い考えだけに固まって、こゝろした不合理さえもあたりまえとしか思われず、それに対し私達が何か云えば、近頃の子はなまじきだとか、使いにいととか頭からはね返されてしまいます。こんな中で育つた美容師の一般的な知識、教養の粗末な事、それに反比例して自尊心だけは鼻もちならない位、美容師の定義として、学校で「芸術家」だとか、「美の創造だとか教えられ

ました。確かに考え様によってはその通りです。但しそれは一部の人のみを指して云う事の様です。男の方には興味のない事とは思いますが、ドレスと同じで、ヘヤーにも実にさまざまな流行があります。ペラミーとか、カラベルとかが、どんなに素晴らしいモードが発表されても、不勉強な美容師に合っては本来の美しさはどこへやら全く非芸術的なカールと、ウェーブの集合に変化してしまうのです。近頃の人は一般に美というものに敏感になって来た様です。それと共にやや外国のモードにこだわりすぎている様にも感ぜられます。こうした事は美容師にも多分の原因がある事なのです。美容師自身が自分達のいる社会の位置を充分に考えあわせて、あらゆる方面から恥ずかしくない丈の知識や教養を身につけて行かなくてはと思うのです。仕事は情性でやって行っても、無駄な事で、良い仕事をする為にはそれなりの努力が払われなければなりません。美容師とは良い仕事を持てますね」と良くいわれます。本当にそうかしらと考えてしまいます。確かに職業としては、自分の研究した物はすぐにもその結果を得る事が出来ます他の職業の様に、年令その他の事情に制限はなく、いつか自分で店を経営したなら、等様々に楽しい想像を働かす事が出来るのですから、但し肉体的に精神的にもかなりの重労働なので丈夫な者にししか出来ない仕事です。今迄の美容界はともかくも、これからは仕事の内容客にふさわしい美容界を作り、世の中の女性をより美しく、チャームキングに……と、仕事を通して大きな望みを持っているわけです。

## 「いちばん楽しいとき」

近藤 恵美子



荒川第九中学校に保健体育の講師として務め始めてから八ヶ月どうやら生徒の前でもあがらずに話せる様になりました。今では自分の仕事に愛着を感じております。現在の学校に務める前に女性の順調なコースとして某製紙会社にオフィスガールとして社会人第一歩をしるし女子大生活に別れをづけました。色々新しい仕事を勉げなければならなかったので三ヶ月は夢中で過してしまいました。しかし一応マスターしてしまおうと、毎日々々が単調で、したがって反省の余裕が生じます。仕事に対する物足りなさ、会社に対する不満等々、学生時代の夢など何処かに吹飛んでしまいました。壁にぶつかり行先に灯のない毎日を過しました。固定された大組織の中で個人など問題にされません。考えた末、退社を決心しました。勿論家でも大反対でしたし社内でも批判の声がありましたが賛意を表してくれる人もありました。何しろ入社後一年も経っていないのですから、反対も批判も尤もだと思えました。しかし私の決心は変わりませんでした。

知人の紹介で今の学校を知りました。私は中学といえは昼間だけだと思っておりましたが、同校には夜間部がありました。中学の夜間は公認されていませので二部という名目で行われていました。先生方から学校の状況、生徒の家庭生活、勤め等、又彼らが如何に生き、如何に学び如何に悩んでいるかを聞き感激してしまいました。彼等の挨拶は「今晚は」です。

私は彼等の中にとびこんで思い切り生活し、彼等を通して今まで知らなかった人生を味わいたいと思ひ現在の職につきました。勿論夜学ですから昼間の様なわけには行きませんが。家に帰るのは十時頃です。変な人につけられた事もありましたし、生徒も家庭的に恵まれていませんので精神的負担が多い事等……ちなみに当時の日記をめぐってみますと、

一月八日 始業式、午前八時出勤、昼間の生徒千余名の前で挨拶をさせらる。心臓の強い私もいささか参る。何を話したか覚えていない。午後五時半より二部(夜間)の始業式、生徒一、二、三年合わせ四十七名、先生三名の小世帯、生徒の年令も十三才から二十六才と巾が広い。背広を着ている者、チャンパーを着ている者、パーマをかけている者、オサゲの者種々様々である。私のために校歌ふるさと、あしたの歌を合唱してくれる。千余名の大合唱よりこの小合唱に胸うたれる。

一月十六日 二年生の私の組を參觀する。社会科のS先生の時間、一番前でO君がもうスヤスヤ眠っている。昼間の労働をいやす休憩所として学校しか彼らにはないのだ、家に帰れば色々仕事が残っている、朝は早く起される。中学生で大人と同じ生活をしているのだ。そしてそれが当然だと思っている。居眠りしている姿を見ると本当にいらしくなってしまう。この子供達を教えるのかと思うと喜びと共に不安がおしよせてくる。自分の事だけでも一杯で他人の事などなかなか考える余地のない私にこの仕事をしていくには今までの様な生やさしい考えではだめだ、彼らは真剣に生きているのだ。Hさん遅れて入ってくる。母親が美容院を経営しているのでおそくまで手伝われるのだ。遅れてもよく感心に出てくる。三十分以上もかかる道をトボト

ボと歩きながら……、Sさんよく笑う。彼女は先生方の間でよく話題に上る生徒であるが、母親がお妾さんをしているので家庭環境悪し。この感じやすい年代の子供を持つ親は特に注意してほしいものだ。学校に行くといつて前にはよく映画や遊戯場に行つたらしい。K君は相変らず、先生の話を熱心に傾聴している。彼は私と同年齢の青年で人格、勤勉、全ての点で生徒の模範である。世の中の種々の経験をしているK君から「先生」などと云われるの、それに答えながらも心の中では自分の若さにひけめを感じてしまふ。彼は家事の手伝いをしながら通学している。自分で工夫して作った部屋をもち机も持っている。学校内で自分の机を持っているのは彼一人である。又家庭生活も一番恵まれている。女子の中には好意をよせている生徒が多い。ホームルームの時間。ホームルームのあり方について議論した。彼等は個人的にはよくおしゃべりするがこういう時には人形になつてしまふ。

一月二十一日 「大変ですね」と昼間の先生が声をかけて帰ってくる。午後八時、暑い夏の夜は広々とした校庭で運動をするのもよからうが、今にも雪が降り出しそうな冷々とした一月の夜はコタツにでもかじりついていたい。両サイドからライトに照らされた薄暗い中で、手をこすったり、足をばたつかせたりしながら、ドリブルをしている。光線のかげんでチラツいて良く見えないうらふうらふしながらついている。時々ヒューツと冷たい風がふきつける。授業が終り星を仰ぎながら冷え冷えとした空気を吸い込むのも又格別である。I君が「先生星の所にいつか行けるだろうか」ととききような声を出す。W君がハアハア云いながらまだかけ続けている。授業が始まる前にW君が「下駄で体操やっていいですか」という。「下駄ではいけません」

彼は靴を持っていないのだ。彼だけでなく大部分の生徒が運動靴は持っていない。「先生の机の下に靴がありますからそれをはきなさい」。しかし彼はサツと裸足になりそのまま校庭を走り出した。最初はその内に止めるだろうとだまっていたが、授業が終ってもやめない。上着までぬいでわき目もふらずに走っている。心配になって注意したが一向に反応なし、他の生徒が「先生W君疲れて明日会社に行けなくなるよ」という。(事実前にも他の先生が跳箱をやらせたら面白がって夢中でやっけてしまい、翌日身体が痛くて起きる事が出来ず二三人会社を休んだとか、彼等には運動はあくまでレクリエーションとしてやらなくてはならないのだ)「貴方達でとめなさい」彼等の手も振切って走っていたが、一時間以上も続け、とうとう動けなくなったらしい。私は玉の様に汗を流してハアハア云っているW君と向いあったまま何も云う事が出来なかった。私はまだ彼等を本当に理解する事が出来ないのだ。

一月三十日 やつとの事で皆んなの文集「あかね」第一号が出来た。彼らの作文の一部を紹介してみる。

貧乏だが幸福だ。 三年 O君

—前略— 父の病気で借金が重なり苦しい毎日が続きます。学校へ行かずに内職に明け暮れた毎日、小さな手の妹も手伝ってくれました。妹は器用です。器用な手を見ると可哀そうでたまりません。なぜ妹までこういう事をしなければならぬんだ。だが僕は不幸だとは思いませんでした。僕には両親がいるからです。—後略—

私の弟を 一年 S子

—前略— 世間の人は学校を出ない人を馬鹿にする様な気がします。

私達はかつてに学校に行かなかったのではありません。学校どころかその日その日を食べて行くのさえやっとなったのです。そういう苦しみ世間の人はだれ一人わかってくれないで学校を出ない人をばかにするのです。その事を思うと弟だけでもちゃんと学校を卒業させたいと思います。—後略—

死なないで！ 母ちゃん 三年 Y子

お母ちゃんはなぜ死にたいと云うのだろう。母ちゃんはいつも泣いている。父ちゃんはどうしてお酒をやめてくれないのだろう。母ちゃんはいつも父ちゃんにぶたれていつもだまっている。そして私に「えい子お前は三年ひけたら住込で働きな。母ちゃんはじぶんで働ける様になったら思い残すことはないからな」といったり又「おまえはお父ちゃんみたいな酒のみの人を持つんじゃないよ」と涙声で云ったりする。私はうんと働いて母ちゃんを楽にさせてやりたい。働いても働いても楽にならない母ちゃん。母ちゃんが死ぬなら私も死ぬと云うと母ちゃんは涙にぬれた顔に無理に笑いをつくって「そうだねえ、死んじまったら何もかもおしまいだねえ」といった。

彼等は貧乏なだけに肉親とのつながりは強い。自分の事より親兄弟を思う気持の方がつよい。そして現実の生活にぶつかって真剣に生きている。子守歌で育ち、よい環境にすくすくと育った子供達と違って彼らは強さと忍耐力を持っている。しかし貧乏に甘えてはいけない。一步一步前進してほしい。美しい花も澄んだ空も輝いている星も彼等には無関係なのだ。

第一回目の卒業生を送り出し、学校の関係で昼間に移りました。夜生徒に比べるとすぐく明かるい。三年生の男子の中にはおじさんの様

な大男もいます。現在三年の女子を受持っていますが、私より大きい生徒がたくさんいるので私が何処にいるか解らなくなってしまうので、話をする時は座らせる事にしています。私が模範を示したりしますと、真剣に私の動作をみつめています。中には「うまいネー」と囁きあったり、手をたたいたりする生徒もいます。調子に乗りすぎて失敗する事もたびたびあります。家の反対をおしきって会社をやめ学校に勤めたのですからつらい事があっても口には出せません。時々どうして生徒の為にこう悩まなくてはならないのだらうと思う事もあります。しかし会社をやめた事を後悔していませんし、又九ヶ月の短い間でも学校と違った社会での色々な事を経験出来てよかったと思っています。色々経験するうちにだんだん欲が出て初めは講師だけで満足していたのが、やってみたいと思う事もなかなか出来ないのです、この夏休みに都の試験をパスしました。これから専任をやりたいと思っております。現在道徳問題、学習指導要綱の改正、動評問題等で教師の巾はせばめられ、色々批判を受けていますが、私達は批判を受ける様な事はしたくありません。しかし私達がだまってみていたら誰がやってくれるのでしょうか。生徒と一緒に下手法アコーデオンを弾いて元氣一杯歌ったり踊ったりしている時が教師としての私の一番楽しい時なのです。(昭三十年卒・新制七期)

## 「社会科一年生」

増田邦彦

世の中に出て、先づ感じたことは、いろいろな人間の居ることであ

る。頭のいい奴、平凡なお人好し、ニヤリスト、奇想天外な人、石で作った豆腐のように、とっつきが悪い野郎等々。人類学だか心理学だかで研究したらさぞかし面白い結果が出てくるのではないかと思う。こういう、あらゆる人種の中で棲息していくのだから誠に愉快である。と同時に非常に骨の折れる大変なことでもある。だから適当にうまい具合に泳いでいかぬと損をするし又成功も望めまい。

学園では真理の探求とか称して、善たること、こうあるべきこと等、純真な学究の徒に崇高でもっともな精神をうえつげることと努める。ところがである。むづかしい講義を拝聴して、息抜きに盛り場をうろついたり、ジャーナリズムのお世話になったりして見聞する人間様の社会は極めて異様な光の中に蠢いている。そこでは部厚い本に書いてあったこと、あご髭を生やした立派なプロフェッサーの口から飛び出た美しい文句が煙草のけむりの如くスーッと消えてしまうのである。一体この矛盾を理論的にどう結びつけたらよいものであろうか。とかく世の中は逆なことが多すぎるのである。客観的にみても正当である考え方をもってしても割り切れない、所謂裏というものが存在する。むしろその方が多いのであるからけしきりからんことである。だからといっていつまでも反動していたのでは相手にされなくなる。だからである。適当に同化してゆくことである。同化されるのではない。当方から溶けこんで行くのであるから或る程度、自分のベースを利用して新しい雰囲気をつち上げるのも痛快である。但し慎重に、かくいう小生も所謂岸辺の草にすぎぬ。

したがって、人は余り潔癖すぎては、かえって世に出て苦しむのではないかと思われる。かといって汚れすぎていても困るかもしれない。ほどほどの人間であることが結構いいんじゃないかと感じたね。

とにかく、人は己れの額に汗したパンによってくらしを立てると手リストさんも云うように、一たび世に出たら何が何でも一生懸命働くことである。小生も、でっかい野望を抱いて荒海に浮んでみるつもり

である。

踏まれても道ゆく芝の行く手にはやがて花咲く春ぞ来らん

(昭27年卒・新制四期)

## 会則改正にあたって

皆 葉 賢

改正の主眼は、(一)会費の値上げ。(二)常任幹事会をより強力にする。の二点に重きを置き、新た現旧校長を顧問に推戴する条を設けて、現第五条の一名誉会長……云々を削除し、あとは条文を簡潔にする意味において、第五条と第六条を同一条にまとめることを目的として細谷先輩と任にあたった。以下改正理由を大ざっぱに記します。

(一)会費の値上げについて(単位円を略す)

使用可能金額(会費金額の二割) 約三〇、〇〇〇

本年度予算額 名簿 二、〇〇〇部 九〇、〇〇〇

会報 三、五〇〇部 七五、〇〇〇

「会報を全会員に無料郵送し、名簿は購入していただく」という申し合わせによる。

一 名簿費徴集方法として(一部二〇〇)

総会出席者約五〇〇人 五〇、〇〇〇

卒業在校生(一部五〇) 約九〇〇人 四五、〇〇〇

で、まあまあである。購入していただくので出来るだけ、充実を計るため、電話を一々かけて調査している次第。ご期待の程。

・会報に、使用可能全金額をあてても四五、〇〇〇の赤字が出る訳であるが、本年度は広告を取ってこれを埋める。

最悪の事態を考えてみると、つまり、またまた総会開催年にあたると全く動きがとれなくなる。これが理由をもって全機能を停止するか、或は存続させるかを常任幹事会にかけるとこの際思い切ってできたら会費を一、〇〇〇に上げたいと云う意見が出た。これを検討してみると、年に三〇〇、〇〇〇集まるのでこれの五割(現在二割)を使用可能金額とすると最悪の事態も切り抜かれる。勿論五割を使用せずとも良き場合は二割でもよいのである。(値上げ金額は父兄・学校とも折衝をしなければならぬ)

(二)常任幹事会を強力にするについて

これから幹事が自然増加する。したがって欠席数の多い幹事も増えるのでこの際三十名内外にしばり、さらに協力のいただける普通会員を常任幹事によりお願いし、文京高校同窓会の活動を活潑にした。

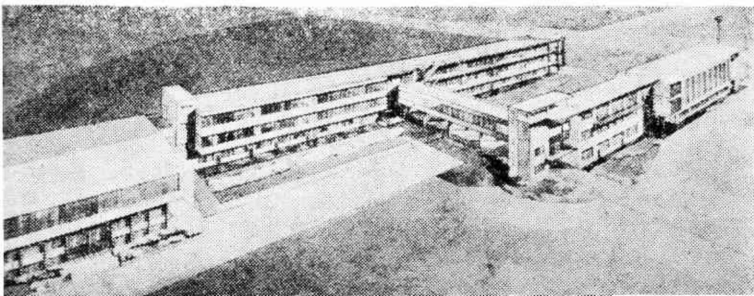
以上が簡単ではありますが改正条項に関する理由です。

# 母校だより

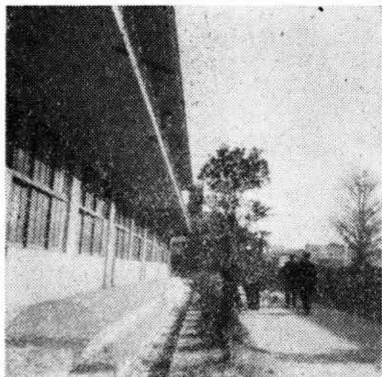


戦時中、および戦後の苦難の道を越えて、元町小学校の借室住いから旧地に復して七年、我らの母校もモデルスクールとしてここまで発展して来た。設備も一段と合理化され、ますます向上発展に精進している母校の近況を昔の苦しかった想い出を胸に、その一端をのぞいてみよう。

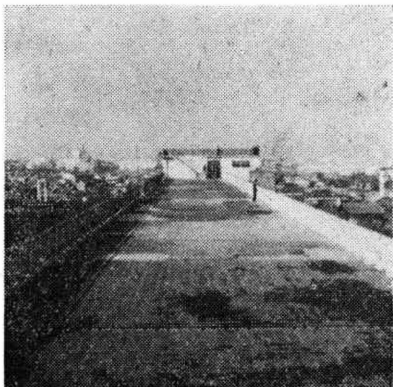
(下図) 未来の文京高校全景。大講堂、室内体育館等を建て全設備施設完了時の俤容が眼に浮ぶ。



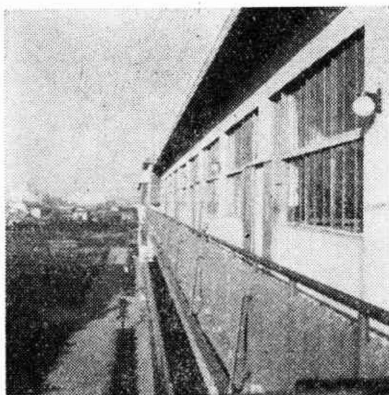




外観（２）校舎に面した運動場も今は整備され焼跡の面影はない。校門から玄関  
平な石畳とグリーンベルトがつづいている。



外観（１）屋上遠く霊峰富士秩父連峰を望み、丹沢山塊もその姿を見せ、初春晚秋はなお美しく、下をみれば池袋から北方へ集落が展開している。



外観（３）南側の美しい緑地２、３階のベランダは休憩時間の楽しい憩いの場所となる。

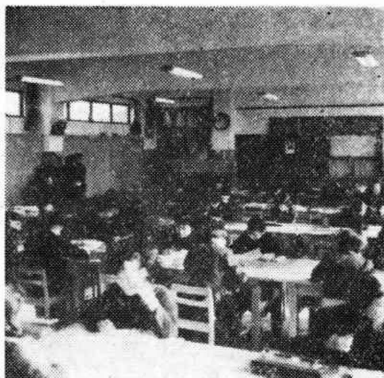


のび行く若人のシンボルに蒼久。新制８期卒業記念。公共図書館に匹敵する図館書。

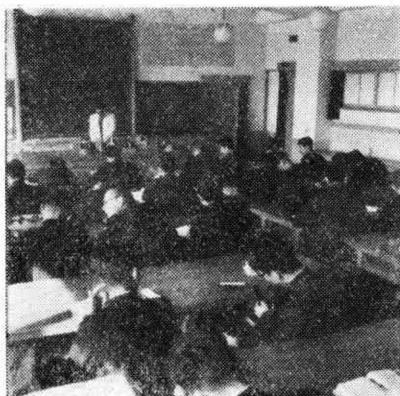




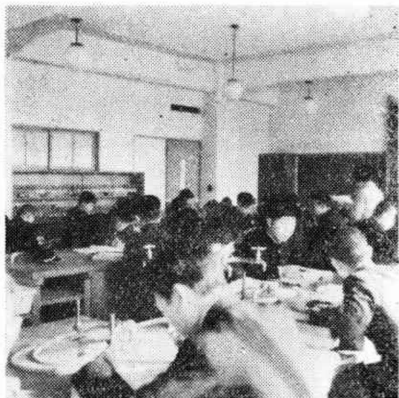
(上) 図画教室。ここでも若人らが美への憧れを胸に、デッサンに、スケッチに、油絵に余念がない。



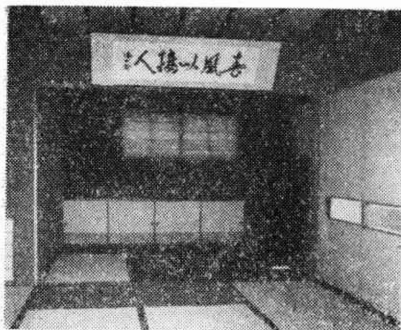
(上) 図書室。別棟の三階に位し、二階の生徒自習室と共に課外の勉学の場である。蔵書数も年々増加し、多くの文京生に勉学の書を供している。



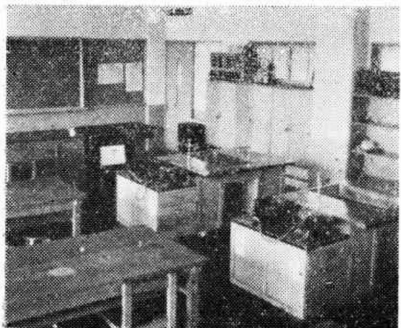
一般級教室授業風景。清潔な静かな modern classroom での勉学に一入熱が入る。休憩時のテラスは憩いの場でもある。



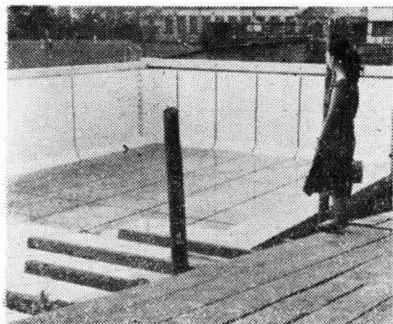
化学教室。若人の夢は大きく科学の扉を叩き、自然の究明に、……次代をになう青年の熱情がみなぎっている。



茶室。家庭科専用教室の一部に和室があり、茶道に…生花に…豊かな若人の美への探求の心を養っている。



調理実習室。同じく家庭科教室の一つであり、乙女達が未来を夢みて花嫁修業にいそしんでいる。



#### プール新設

校庭の一角に今度プールが新設された。今春着工され八月中旬水を入れ九月プール開きが行われた。総工費、400万、脱衣所等は未だであるがいずれ完成の模様。大塚中学移転に伴う体育施設拡充の第一のものである。

## 十字路

大勢の方々のお便りまごの欄に集めました。なつかしい顔ぶれの中に今の昔を偲んでください。

### 「高知市旭ヶ丘」

川島源司

卒業生の皆さん、お元気ですか。私の学園も昨年春、新校舎へ移転すると同時に、小学校を開設、現在幼稚、小学、中学、高校合わせて三千人となり、私も六十七歳の老校長になりましたが、今の処元気で就任以来六ヵ年半、一日も休まず教育に専念致して居ります。

昨年暮に前校長奥田先生が来てくれました。昔をしのんで誠になつかしかったが、三月に停年とはいえ退職されたことは残念です。私は市立一中時代から二十年も同じ学校で教育の道に共にして来ましたが、あんな立派な教育者は極めて稀で、私共は先生を神様と申して居りました。従って先生の退職が余計に残念です。然し先生のことですから今後と雖も、文京高校のために充分の援助を与えられることと存じます。

文京高校も敷地内にあった中学が立退くと

のことで、誠に喜しく、その環境を整理し学園らしい姿となることでしよう。学園の環境が整然たる中に、適當の緑化を加えて気持ちよくすることは教育上極めて大切なことです。最後に卒業生の皆さんが力強く社会で活躍せられんことを期待致して居ります。

(高知学園々長)

### 「ベルト・コンペアー」

榎本幸三

神保町から九段に寄った電車通りに面した中位な店構えの事務所、デスクの上に帳簿、在庫帳種々の伝票、それに電話……。

電話のベルが鳴る「○○紙業です。毎度有難ございます。ハイ上質のB判六〇听、タラ目を十二連と特再アートのA判八〇听、ヨコ目を五連半ですね、ハイ承知しました、お届け致します。えっお値段ですか。上質は四十三円、アートは七十二円になっております、えっいやー高くありませんよ。そうですか。ハイ承知しました。有難ございました。」これが私の仕事の一こま、白さでどうツカがどうヒキがどうと中々紙と云っても複雑なものです。学生時代気にもとめずに使って来た教科書、参考書、ノートその他諸々の事がこう

した複雑な組合わせを通じて来ていることを身を持って知らされているのですが、複雑さを知るに従って私も社会人と云うベルト・コンペアーに乗ってしまったことを自覚するのです。コンペアーに流されながらふと振り返って見るのは学生時代です。

(新制四期二十七年卒)

### 「追想」

黒沢隆朝

私が音楽を担当したのは創立当時の二年間、当時日支事変初期の物騒な時代で、爆弾三勇士なんか新聞のトップ記事であった頃である。ある時君らにもこんな勇ましいの出来るかなと軽い気持ちで言ったら、眼を輝かした少年たちに「出来ませすっ」と大喝されて、背筋が一瞬ゾッと寒くなった事を思い出す。川島校長は音楽には特に熱心で、グラインドピアノが東京になくて京都から探し出して来たり、当時中学には過ぎたサクソホンを入れたフルのブラスバンドが編成されたり。変わった校歌が欲しいと言うので詩人ヨネノグチに依頼したり、当時紺がすりであらぶらしていたのはイサムノグチで、先年彼が山口淑子と徳川夢声夫妻と四人でパリのシャンゼ

リゼーを横隊を組んで歩いているのを、夢声のカメラで風流なスナップを撮ってやってお茶をのんだひと時があった。さてこの頃街角でパリッとした青年から先生と声をかけられ、それが当時の中学生であると名乗られ、先生とよばれる教師冥利をつくづく感謝している。

(旧職)

## 「水田の土と戦争」

山田 昭 捷

終戦直後、昭和二十二、三年頃から急にアメリカ文化がとり入れられてきたことを小学校の時代に記憶している。その頃にはまだアメリカの悪口や非難をすればしかられる時代であったように思える。その頃私達の社会科には日本の百姓の姿とアメリカの百姓の姿がよく絵入りで比較されていた。アメリカの百姓はビールをのみながら新聞を見て機械を運転して『小麦』をまいているが日本の百姓はくわをかついで田をたがやしもみをまいて『米』をとっているのがあった。この説明には日本も早くアメリカのように機械で耕やせる小麦畑に切りかえるべきであると記されていたのもうすら憶えに憶えている。先日物置のかたづけのときにそれらの本が出てきて小

学校、中学校の時代をなつかしみながらベージをめくってみるとなるほどうすら憶えの通り小麦畑にせよ小麦畑にせよと書いてある。今農林省の土壌に関するある研究を手伝っているが手伝うまでに聞いた話の中にはちよくちよく日本の国は水田でなくてはだめだと言う言葉が耳にされる。なぜ水田でなければならぬのか小中学校式の考えで問い質して見たら日本が戦時中も食糧の面では外国と遮断されてしまったにもかかわらずそこまで長期間もちこたえたのは水田があったからだと言う。なるほど水田の土と畑の土とは段違の差があることが最近自分の手にした試験官ではっきりわかったように思える。というのが簡単に言うならば有機物の腐蝕の度合がはなはだしく異なるのである。水田泥は水の為に一定の温度にしじゅう保たれ施肥された有機物が空気と断たれている為に分解せずバクテリアの繁殖に役立ちバクテリアの死がいがある有機物として残留し蓄積されますます肥えてゆく。しかし畑の土の場合には空気は完全に流通し太陽からの光熱を直接受け30〜40度近くまでの温度上昇が有機物とみな分解させてしまうので施肥しなければ全くつかいものにならないものになってしまいうだ。戦時中

は日本にはごく少ししかない燐酸肥の輸入がとまってしまったのにもかかわらず米だけはその収穫量が昨今に比べてあまり変っていないのもうなずける点ではないだろうか。やはり昔から経験によつて今日まで来たもの、特に農業には改良も一がいに入まねや大改革は一考してしかるべきではなからうか。というのも単独な考えでは割り切れぬ自然のおもしろさと深さがひそんでいるからであろう。それにしても戦争で水田の良さを知ることにはもうこりごりである

(九期)

## 「随々想」

吉田 徳 重

想出深い文京の学び舎、全国モデルスクールとして発展の途上に輝き、名実共に誇りのもてる同窓生諸君の緊密なる連繋と相互扶助をたてまえとする紫筍は、校長先生始め幾多先輩の慈雨を満身に受けて、益々すこやかな「伸び」をみせていただくことができ、何よりです。

私にとつて、今は古き日の想出でありますだけに、少荘組の想像も許さない生活の仕方であった戦時中から終戦時が在任時代だけに、只この頃の在校生や卒業生諸君の動静が

無性に恋しく、又なつかしくも感じられ、紙上にて、御多幸をお祈りいたします。

小生は二十年の春四月半ばから郷土郡山の高校に転じ、新学制と共に中学校長に出て十年、昨年からは、芭蕉の句に名高い、奥州は白河の関守り」の後記小学校長におさまっています。家族七人、長女は都内の学校で修業中、来春からは、皆様方のお世話になります。

一枚の原稿用紙では不十分ですが、今後はこれを機会によりしく御連絡下さい。白河市立小田川小学校公舎内。  
(元教諭)

「ずばら」

諸 富 泰 男

私が文京高校を卒業してもう八年もたった。昔懐かしい大塚に素晴らしい校舎が出来たというのに、まだに一見したこともない始末である。昔、なにかと御指導いただいた諸先生にも御無沙汰のしどおしで誠に申し訳けないと思つてゐる。

現在クラスの幹事をしているが、幹事会に一度も出席せずにはばらでとおしてしまつてゐる。つくづくこのようなずばらで世間が渡れるものと自ら感心しているが、せめてずば

らの罪滅ぼしに拙文をまかえりみず一筆献上したつもりである。

数多い同窓生の中に一人位は私と同類がいるかもしれない。同類よこれからはつとめてまめになるうではないか。母校のために。

(文京二期)

「近頃思つたこと」

山下 雅 巳

「喜びも悲しみも幾年月」と言う燈台守を扱つた映画があつたが、教師というものは、どうも燈台守に似ている。幾年月も何百人かの航海の援助はするが、自分一人は決して向うへ行きつくことがない。風雨にさらされて身なりをいとう暇もなく、専ら橋渡しの方法をあれこれ考へる。いくら研究しても際限がない。それでも光を与える手を休めることはしない。これは燈台守にはなすべき義務の一つであり、又楽しみのすべてなのだから。

文京は色々楽しい思い出の時代であり、又夢中の頃でもあつた。過去をいつくしむことは現在を歎くことにならないが、こうした多事多忙の世の中に、心温まる過去を持つてゐるといふことは、何にも代え難いことだ、さすがのカーライルもそこまででは気がつ

かなかつたのだろう。

大学の研究室の窓から、横浜の田園風景を眺めながら、フトこんなことを思つた。

(旧職)

「音 楽」

横 沢 靖 夫

志賀高原の山の中で皆んなできれいなハーモニイを出した時、ああ音楽はいいものだなあと再認識しました。音楽を愛するもののみが満足するこの喜び、幸福感、この時こそ、社会の全ての騒音を忘れまます。

高校を卒業して、九年、大学を去つて五年人は交わり社会は交つても音楽のみは変わらないでしょう。

公私の雑事にまぎれて高校の諸君には御無沙汰しましたが、又、仲間入りをさせて下さい。

(文京二期)

「幹事の願いは、

＼増えても減らず」

皆 葉 賢

編集長が //原稿一枚//と頼みに来られる様子では仕事も順調にゆき、嘸、編集子諸氏の奮斗に非常なものがあつたことだろう。名簿、会報の発行に携る幹事の年代も、先輩達

が一人去り、二人去りして、到々二十才前後になった。そしてずっと活気づき、女子も人数を増し、我々名簿編集会議では、九期の大橋嬢が采配を揮っている塩梅である。儲、こうして仕事をしているうちに目出度い話が木犀の匂が如くどこからともなく入ってきた。

そは細谷組と若林組(五期)の両先輩の結婚のこと。男連中は皆ニヤニヤしている。(勿論小生でもある)しかし、細谷君は現在の生活が存続出来ぬ様な結婚ではしないと云われていたので、これで幹事が減らぬと安心した一方、母校のプールが今夏完成をみるといので、往年の水泳部長の若林さんにはレースを申し込み約した。何時繁吹があげられるやら。願わくば、毎年でも、次第に人数を増して。(七期)

### 「友人の死」

新井洋子

最近久し振りに、鎌倉の友人から電話が掛かって来た。懐しさのあまり時間のたつのも忘れて話し込んでしまったが、Y嬢の逝去を聞かされて驚いてしまった。しかも「胃ガン」ときき、まさか彼女がと信じられなかった。学校時代は、と云っても文京ではなく東

京家政だが、よく学び、よく遊んだ仲だった。如何なる理由で「ガン」などと云う厄介な病気に取りつかれたかは知らないが、昨年の七月も半ば、うっとうしい梅雨も終りに近い頃、食べても食べても体が痩せていくので、家の人が心配して築地のガン研究所で診てもらった所、ガンは胃から、他の臓器に転移し、もう手の施し様がなく医者から死の宣告を云い渡され、本人には何も知らさずに、静養と偽わって東京から鎌倉へ偶然にも友人の二、三軒先へ引越して行った。幾日か過ぎて、友人はYのお母様とは知らず話しているうちに、Yの事を知り、病の床にかけつけるやと学校時代の面影は何処へやら、骨と皮ばかりに痩せ細り、唯もう涙がとめどなく出て何も云えなかったそうです。そして今年の一月六日に二十一才と云う短い命で帰らぬ人となつてしまったのです。八頭身美人で誰からも好かれ、本当に幸福な方でしたのに……。先月の新聞にガンの記事が出ていたが「ガン」の死亡率が年々増え他の病気の死亡順位でも大正の中頃は十一位、昭和二十五年には第二位に進出、それ以来不気味な急増ぶりを見せ、やがては第一位になる日も近いし人類の最後の病気にもなりそうだ。と書いてあつ

た。何れにしてもお互いに人事とは思わずに常日頃から健康に気をつけて長い様で短かい人生を有意義にかつ悔いなく過ごそうではありませんか。(新制六期)

### 「最近の感想」

秋元精一

- 1、すべての問題が政治的に解決されようとする傾向がある。もっと科学的に研究したいものである。
  - 2、多くの対立は力で争われているが、矢張り共通点を見出すことによって建設的に発展させて行きたい。
  - 3、量から質へ飛躍する。充分に目的を見きわめて質的に吟味する必要を感じる。
- 最近の世相を見て右のような感を深くします。(上板橋第三中学校長)

### 「民主的教育の危機」

佐藤真悟

最近、今日行われている民主的教育(その方向に向って進んでいる教育)に大変な危機が迫っていると云える。現在の教育の生まれだ歴史的背景には、政治的には征服国たるアメリカの植民地日本への統治政策の一環があ

ったわけであり、教育的には、デューイの主唱するプラグマチズム（実用主義、経験主義）があったわけである。ところがその後の世界情勢の変化、即ち資本主義陣営と共産主義陣営との対立が激化し、東洋に於ける日本がアメリカにとつて軍事上極めて大切になつて来た。そのためにアメリカはどうしても

日本を東洋に於ける防波堤として役立たせるために日本に軍備を持たせねばならない。それには現在の日本国憲法が極めて邪魔であるし、現在行われている民主的な教育もどうかして変えて行かねばならない。このアメリカの焦りが日本の政府への圧力となり、これが昨今の教育に対する一連の反動政策となつて現われているのだと云える。今日迄の地方分権的な教育体制を中央集権的な方向へ転換し、再びあの恐しい中央統制が頭をもたげ始めている。教育委員会法の改悪、視学官、視学委員の設置、国定教科書の実施、勤務評定の強要、道徳教育の特設強行等々の反動文教政策がこの間の事情を如実に証明している。ここに於て今や日本の民主的教育は絶対的危機に追い込まれ、日本のこれ迄つちかわれて来た民主的學校教育は姿を消さんとしていく。日本を再びあの恐しい社会に帰らせたく

ないと願う者は、又自分の可愛い子供を戦場へ送りたくないものは、この時の権力者の暴威に対し出来得る限りの抵抗を余儀なくされるのではあるまいか。

（新制七期）

「子 供」

唐 沢 勝 敏

「学生はこうでなければならぬ」。いわば理想的学生像とでも言ったらよいのでしょうか。文京卒業以来充分解っていた私は卒業を間近にひかえ、解っていたと思っていた私に気がついて、全く情なくなっています。私の学生生活に何が残っていたでしょうか。それはただよくも四年間も家庭教師をやつたものだと誠に淋しい気がします。

淫猥な看板が充滿して、勉強部屋の窓越しからは、真向いのキャバレーの内部が手にとるように解ります。こんな浅草のど真中の環境に置かれてる子供はきわめて、のびのびと自由に成長していくものです。結婚間近い姉を呼んで「姉さん、姉さん、決して不安におびえたり心配してはいけませんよ。結婚というものはね単なる……」と長時間講義をした子供がいたそうですが、教える子は全く、素朴で

のびのびとして、きわめて無后な性格なのです。心理がのびきならないまでに児童の生活の場（環境）を重視しますのを思いますと、奇妙な感覚に襲われます。

二、三日間、二人でロックの映画館通りを歩きました。とある劇場まできますと、

「先生どうしてあの劇場には学生や小供の料金が出でないの？」と子供が不満そうに尋ねるのでした。「正ちゃんのような子供が観てはいけなからだよ。大人だけに許された劇場なんだよ。」

と説明しますと、こんなことをつぶやくのでした。「つまらないな、子供が遊ぶ遊園地にだって大人の料金が書いてあるんだよ」先生がどうして子供と大人とを区別するのかなあ」

憎らしいほどの羨ましさを私は抱きました。私達の子供でありました頃は社会が自由に呼吸することを許してくれませんでした。戦後の子供はこのように何んでも批判でき、のびのびと育っています。これも新教育の賜物と思えるのです。しかし現在このような子供達の尊い芽を無惨にむしり取りますような方向にある力がぐんぐん働かまして私は身震るいするような恐ろしさに見舞われるのです

が。そして、こんなことを真剣に考えることが非常に大切な問題ではないのかと私には思えるのですが。  
(新制七期)

「或朝のおもい」

佐藤 智昭

目が覚める。何だか部屋の中がムットする程熱気が籠っている。今日も暑くなりそうだと思いがら戸外を見ると、六時の夏の日は大部高い。近頃メッキリ増えた褐色の悪戯者雀がチュンチュンとホウズキを一周り大きくした程の実を付けた柿の枝から枝へと虫を漁るに余念がない。

庭へ下りて土を踏むと、乾いた地面に伸びた夏草はシットリ濡れて素足に快い感觸を与える。私は宮沢賢治の或る本の発行に寄せた序文を思いだす。

ワタシ達ハ、氷砂糖ヲ欲シイ位持タナイデモ、キレイニスキトオッタ風ヲ食ベ、桃色ノ美シイ朝ノ日光ヲ呑ムコトガデキマス。

マタワタクシハ、鳥ヤ森ノ中デヒドイボロボロナ着物が、一番素晴シイ、ピロロドヤ羅沙ヤ、寶石入ノ着物ニ、変ッテイルノヲ度々見マシタ。……

私の思いは遠く貧しいドリムランド岩手

県へ飛ぶ。深いブナの森、澄んだ大気、遠く北の果まで続く電柱の列、すべてが田園の新鮮な産物だ。

私は北の空を仰いで、深く大きく大気を吹い込む。然しそれは生暖かく、淀んだ、胃の腑を素通りする大都会のそれでしかなかった。

「軽井沢の夜」

関根 秀次

都会に住む私がたまたま軽井沢の地をたずねた。三十三度という暑さの東京をよそに、かの地はひやりとする涼しさであった。静まりかえっていて、さびしさを感ずる位であった。浅間の山のいただきには黒い雲がおおっていた。日が静かにくれる。夜がおとずれる。なんだか自然の力がおおいかぶさってくる感覚にとらわれる。静かになって行くのである。ひやりと肌にしみるような夜の空気にひたりながらロビーに出てたずんだ。湖の水が波立つとキラキラ光る。浅間の山はただ黒かった。眼前にどっしりと立ちはだかっていた様に思えた。周囲のものがすべて黒々としていた。オールを動かした。小さな波音がしる。ボートはすべって行く。せめて人間である

事の喜び(生きる事)とうれい(有限である事)とビールに事よせたかった。ボートは無心に進んだ。寒気はセータをも通してやって来た。部屋に戻る頃全てやみに包まれていた。

「豊島中一年の春」

太田 敏夫

「立派な校舎やきちんと整地された運動場を見ると、何も僻んでいるわけでも、皆さんが恵まれ過ぎていっているのでもありませんが、私が中学一年生としてこの学校にはいった頃を思わずにはいられません。皆さんは、この運動場でも、まだ不満があるでしょう。水はけが悪く、雨が降るとぬかってしまう。地をほうゴロは不規則パウンドをする……と。たしかにその通りです。ところで、私たちは、この運動場がもっともっとやわらかければよい。膝小僧までもぐるようならよいと思つたものでした。ツルハシを肩にしては学校に通い、廃墟のグラウンドを掘りおこしてトウモロコシを植え、サツマイモを作り、コエタグをかついだのが、私たちのその頃の唯一のスポーツであり、また学習でした。」

今、私は中学一年生を担当して国語を教え



ているのですが、もしも文京高校の教師になっていたならば、就任の挨拶の中には、きっとこんなことばがあったはずですよ。

### 「三菱銀行文京生のつどい」

森 理

文京高校を卒業して、三菱銀行へ入行せるもの、十四名（男子四、女子十）

一年に二回位、集ってジュースやお菓子で清談をする（男子にはアルコールを出す）

入行年月日も違ふし、各配属店も異なるので、始めは固苦しい感じであったが、同じ高校を卒業している事が、いつか暖かいものとなり自己の体験を先輩が話せば、後から後からと失敗談が出、又諸先生の思ひ出等が語られる。又先輩に対して意見を聴く、和気あいあいの中に終るのだが、この会も今の所名無しの中でその中に立派な名前がつけられるであろうと期待している世話を焼いてくれるのは、三崎町支店の上村芳子さん（二十九年）卒業年も大いに三菱銀行に入行して、若さを此の会にもたらし頂きたいと思つてゐる。

（小生は丸之内支店在勤中。）

終りに、同窓会の発展を祈る次第。

### 「めぐりあい」

ひらきともひこ

めぐりあいなどと云うと大げさだが、今年一月二十七日の午後、電話がかかって一回家の久保秀樹君が「これから会いに行く」と云うのには、顔を見るまでは本当に出来ないくらいでした。

戦争中どうした拍子か、学校の机の引出しの中に入れておいたばかりに焼残った「第三東京市立中学校父兄会々員名簿」をとり出し、久保君の知る限りの説明をあれこれ聞いてみると、不思議と、すっかりぼやけていた私の頭の中に、あの豊島中学校の校門をくぐっていた少年の面影が一つ一つくっきり甦って来ました。淡路島からの燈台の赤い灯を眺めながら岡を下って、二人で酒をくみ交わしましたが、久保君は酒が強いのかそれとも余り飲まなかったのか、私の方がすっかり御機嫌になつてしまいました。東へ去る久保君を駅で見送りながら「命なりけりか」とつぶやいた事です。

（旧職）

### 「なんとなく」

山名 武明

学校を出て社会へ出てみると学窓生活がなつかしく想い出されます。長い学生生活のうち高校生活というものはとりわけなつかしいものです。青春の夢にあふれ明るさが漲っていた。その夢はロマンチックであつたり、或は現実にくくしたものであつてもそこには何となく明るさがあった。それが一步社会へ出てみるとあまりにも現実が厳しく、抱いていた夢が崩れ去って行くのを何とも出来得ないさびしさを味わつた人は多いであります。萎縮した夢はゆがんでいたり、ともすると暗さに濁つていたり、この厳しい現実に処して何を心のよりどころにして生きるか、人それぞれに生き方があります。

（五期）

### 「私の近況」

井上 謙治

すっかりごぶさたいたしておりますが、みなさまお変わりありませんか。わたくしのほうは至つて元気でおります。この間までは、神

保町附近で大学生姿の卒業生諸兄妹をお見かけしたのですが、さいきんではそのようなこともなくなりました。もう就職、元気で勤めになっているのだらうと思つて、いませが、まことに早いのが歳月の歩み。わたくしもこの六月で満一才になった男児の父になりました。毎日子供を相手に他愛なくオモチャ遊びをして過しておりますが、この様子だと今年もまたたくうちに終つてしまいそうです。文京にいた頃、よく奥田先生から早く結婚して子供を持つようと言われたものですが、あれから四年、写真機片手に乳母車を押すようになりました。イタズラ放だいのおわが子を奥田先生がごらんになったら何といわれますことか。そういえば奥田先生も文京を御退きになりましたが、今後ますます御健在であられますように、末筆ながら御祈り申上ます。

「ホワイト・カラー」

高橋 忠 正

毎年夏になると車の中などで、感じる事であるが、この暑いのによくまあ糊のきいたYシャツに、きちんとネクタイを締めて背広を片手に持っている紳士を見かける。上衣を手

に持っている位なら一層の事家に置いてくれればいいのと思ひ、この暑いのにネクタイなんか締めて気取つてやがらと思つたものだ。しかしこういふ事が現実には自分がこうしなくてはならない環境になつたのも、ひにくなものだ。

この前ある新聞の朝刊に『人いぎれのする満員電車の中で、この暑いのに背広姿でネクタイをつけている男性がいる。どうしてもつと涼しい開衿シャツやスポーツシャツを着ないのだらう。』と、スポーツシャツでの通勤は別としても、本当にもつと合理的な服装がいけないのだらう。多分これは勤め先が服装についてうるさいとか、上役がいつもきちんとしてゐるから自分もそうしなくてはまずいと思つてのことだらう。自分も実際そうなんだが、イギリスのように涼しい国の風潮をそのままとりいれる所に問題があるわけで、こういう問題は自分一人で解決出来る問題ではない。又今年の夏も、汗をふきふきネクタイを締めていなくてはならないようだ。

(九期)

「ついでに話」

長島 弘 一

私が今の校門を始めてくぐつたのは市立三中時代である。その一年の時に同じD組であつた人達の集まりが年一度つあり、その幹事を私が受けた時のこと。入学した時は六十名あまりだつたのが、途中、戦災、疎開とうで皆散り散りになつてしまつて卒業の時は十人あまり、それでも種々連絡をとりあつてゐるうちに三十五名の住所が判明した。四月の半ば、ウィークデイだつた、私は東北線の小山駅に降りた。当時一番親しかった老沼君の住所を彼の母上が教鞭をとつておられた学校で知つたからである。駅前交番で尋ねると二年程前町名改正になる前の番地なのではつきりしないがその辺だらうと教えてくれた。だが、すぐにわかつた。案内をこうと老沼君が玄関に出て来た。向うは私がわからない。『長島ですよ三中の』それでわかつた。彼は毎日東京にかよつてゐるのだが、めつたに休んだことのないのに、その日にかぎつて役所を休んだのだということだつた。私は何かが二人の間に通つてゐる様な気がした。

(文京一期)

「切に思う」

鈴木 時 亮

陣頭指揮福生飛行場建設。奥田、阿部の両先生とホームに腰をおろしたまま何回も何回も帰りの電車を見送った立川駅。

吉田君が帰ったと。予科練志願の小倉、村松、生沢の諸君も健在らしいと。耳が悪くて静かに答える和夫君である。

今日も日課を終えて悠々飛行機雲を残し南方へ消えて行くBの編隊。

陸軍記念の大空襲西沢君九死に一生を得、梶君行方不明、栗原君漸く弟妹を捜し出す。中仙道は四六時中疎開の人の波がうねる。車の後押す女性にきけば長野へ行くと。石川寛信君右手指切断嗚呼胸は痛む村山鉄工所。

四月十三日夜。至近弾島海君転げる様に壕に入る。中島二長殉職。

尾藤君を尾久に訪ねる。僕は田舎へ帰る転地せよとすすめる。いや大丈夫と云って笑顔を見せた彼の名前は名簿に見えない。

空襲下の卒業記念写真すらない。戦争は忘れた時分に起きると。世代の交番に際して逆コースを切に思う。卒業生諸君の御健闘を祈る。

東北本線小牛田の次駅田尻下車吉田行バス一時間、本当に淋しい農村ですが、東北御旅

行の折は是非御立ち寄り願います。茅屋で一夜語り明かす度い気がいたします。(旧職)

### 「旅のことなど」

西川 仁

今日思い立つ旅心 帰洛をいつと定めん謡曲の舟弁慶の文句ではないが、思い立ったが吉日と、急に軽井沢へ旅立って来た。

暑さと雑音を離れて、静かな榊松林の道を歩いてみたい。白秋の詩の様に、しみじみと榊松林を味わいたいと考え乍ら、上野駅に行つて驚いた。日本の人口過剰をつくづく感じさせる人波である。それでも、汽車に乗れ、席も取れたのだから文句は言えない。例年の様に、暑い暑い東京から、刻一刻離れて、横川、熊の平で、涼風の有難さを心から感じる程、今年は暑くなかったので、軽井沢の駅に着くと、鳥肌がたち、少し寒すぎる感じだった。別荘に着いて旅装を解き、少し散歩しようと思つて、出るに霧雨が降つて来た。

翌朝、雨だれの様な音で目を覚ました。

窓外をみると霧で一面が、かすんで、榊松林が濡れている様だ。あたりの空気は、しっとりと冷たいので、寝覚めの悪い私でも、すつと起きる事が出来た。窓を開くと、ぬれた空

気が室内に入つて来た。雨だと思つたのは木々から落ちる、しずくの音である。黒い土も木も草も、みなしっとりと露を含み、乾燥した都会に生活している私には、しずくの音を雨かと聞き違える事が、多かつた。榊松林の道自転車が二台通つていった。静かである――。鼓膜にシーンと静けさが伝わる位、雑音に馴れた耳が、変になる位静かな朝だった。

近代の軽井沢風俗の人がたむろす。旧軽通りも、觀光軽井沢の名所、鬼押出しの人波も、この榊松林までは、まだ影響せず、特に霧雨の降る時などは、白秋の詩に詠まれた時の様な、静かな榊松の林なのである。

(十期)



(3ページより続く) 感な私でも心身共に爽快さを感じるわけではあります。次から次へと「あれーなあに」と聞かれ出すと、孫の興味を引くような物に対する自分の智識が誠に浅薄。到底満足するような面倒がみきれなくなってきたので、年甲斐もなく精神的な苦悩を感じるような事が多いのです。云わんや童謡とか絵かきの面倒をみる事になると尚更の事で身にしみて不甲斐なさを感じております。

こんな現状です。から三十三年間の教員生活を掘り下げて反省すればする程大いに悔を感じて来るのですが特に校長としての十年間の諸君の指導に対しては、余りに足らざる点の多かった事を痛感し今頃になって申訳ない事をしたと悔いて居る処です。

然し誰よりも質素に、誰よりも勤勉たらんと努力を続ける事がより大きな博愛の精神を培い、平和な社会と幸福な人生を築き上げて行くのに、凡人の我々にとっては、一番大事な事であると云う事だけは今も尚間違っていないと固る信じて、出来ないながらも努力を続けて居る積りです。そうして孫にも出来たら此の信念だけは何とか身につけてもらいたいと念願しているような事です。

身勝手な事ばかり書きましたが切に卒業生諸君の健闘を祈ってやみません。

(5ページより続く)

あの頃は楽しかったな。なつかしいな。あいつは今どうしてるんだらう？ 現役の連中はどんなだらう、先生方は？ 忙しい毎日の中にも、ふっとそんな気持になることは誰でも経験することです。そのような慰いを与えてくれるもの、それが同窓会です。母校や後輩に少しでもよくなって欲しいと願う気持、それを具現するのが同窓会ではないでしょうか。

勿論、単なる懐古趣味に終ってしまうことは厳に戒めなければなりません。そのような同窓会とする為に我々は常に全力を尽しております。そして現在、本会は苦しい乍らも数名の有志とわずかな予算とで可能である最大限度まで成長してきているのであります。

現在より一層の飛躍的發展、それは一つにあなたの同窓会に対する認識如何にかかっているのです。どうか本会の使命を再認識され、会の發展に協力されるよう心からお願ひ申し上げます。

そして会からいろいろな連絡のあった場合、住所、勤務先、学校等に異動のあった場合には必ず御一報ください。あなたのわずか五円の葉書と三分間の労力とが私達の同窓会を發展させる最大の基盤を作り上げるのです。

会 則 (昭三三・八・二三改正)

第一条 (名称・事務所) 本会は東京都立文京高等学校同窓会と称し事務所を母校内に置く。

第二条 (目的) 本会は会員相互の親睦をはから併せて母校の発展に協力することを目的とする。

第三条 (事業) 本会は前条の目的を達成するために、次の諸事業を行う。

- 一、総会
- 二、名簿・会報の発行
- 三、その他

第四条 (会員) 本会は第三東京市立中学校、東京都立豊島中学校、東京都立文京新制高等学校および東京都立文京高等学校の卒業生と在学したことのある者で希望により入会を認められた者をもって通常会員とし、現旧職員をもって特別会員とする。

第五条 (役員および幹事) 本会の役員および幹事の職務を次の通り定める。

- 一、会長 (一名) 会務を総理し、本会を代表する。
- 二、副会長 (二名) 会長を補佐し、会長に事故のある場合は代理をつとめる。

三、会計 (一名) 本会の金銭、物品の収支を正確に記録する。

四、書記 (二名) 総会、常任幹事会および幹事会の議事を正確に記録する。

五、常任幹事 (原則として三十名) 常任幹事会を構成し、会務を遂行する。

六、幹事 (原則として各級より一名) 幹事会を構成し、会則に従いその目的遂行のための立案・審議・確認をする。

七、会計監査 (二名) 本会の会計を監査する。

第六条 (役員の任期) 役員の任期は一年とする。但し留任を妨げない。

第七条 (顧問) 本会に顧問をおく。

顧問には母校の現旧校長を推戴し会長の要請ある時、各種機会に出席し意見をのべる。

第八条 (経費) 本会の経費は入会金・会費・事業収益・利子・およびその他の収入をもって支弁する。

第九条 (改正) 本会則の改正は幹事会の賛成を得て総会において報告しなければならない。

附 則 1 本会の運営についての必要な事項を別に定める。

2 本会則は昭和三十三年八月二十三日からこれを施行する。

東京都立文京高等学校同窓会 会計報告

昭和 32 年 4 月 1 日— 33 年 3 月 31 日の間、会計次の通りです。

昭和 33 年 4 月 1 日

委員 長 静 谷 晴 夫 ㊦

会計 委員 西 岡 弘 ㊦

監査の上、正確であることを認証します。

昭和 33 年 4 月 1 日

会計 監 査 須 永 須 ㊦

会計 監 査 末 正 明 ㊦

(1) 財産目録 (33年 3月31日)

資 産 目 録	負 債	差 引
貸 付 信 託 130,000		
現 金 139,587	0	
269,587	0	269,587円

(2) 収支計算書

収 入 の 部		支 出 の 部		差 引
前期繰越し	214,659	会 報	47,182	
入 会 金	90,000	通 信	1,106	
寄 付 金	15,100	委 員 会 費	4,645	
銀 行 利 子	9,586	事 務 費	3,000	
		事 業 費 他	3,825	
	329,345		59,758	269,587円

## 編集後記

◇「燈下親しむ頃」會員諸兄姉の御蔭でようやく「紫筍」第三号を御贈りすることが出来ました。いつもながら編集部は「生む苦しみ」を味わい特に今回は総会を眼前に控えて大奮斗しました。予算がない、原稿はメ切日に来ない。同窓会の窮状は、本文にも会長が訴えているのです。に御存知と思いません。こうした悪条件の中で私達は、まだ若い私達の同窓会をなんとかして、順調の軌道にのせるよう努力しているのです。人工衛星をひきあいに出すのはおこがましいが、現状では「望洋の歎」を禁じ得ません。しかしこの仕事は非常に困難ではあるが不可能なことではないと確信します。

同窓会の運営にあたって会長をはじめ皆が心からそのファイトに尊敬の念を抱いている同窓会の功労者、細谷氏が華燭の典をあげる。

誌上を借りて御祝いと御多幸を祈り併せて今までの御努力に心から御礼を申し上げます。

(長谷部信)

紫筍の編集にたずさわり、後記を書くのもこれで二回目。そして書くに当り、感じることはいつも同じ、もう少し全會員の皆さんの協力がほしい、と云うことですが、ともあれ完成された原稿を前にした時の喜びは一人、編集部員でなくては、解らない心境です。とにかく一つのものに、まとめると云うことは、大変なことですが、作り上げた皆さんの力を心から喜び、この紫筍をよりよく皆さんのものとする様に、努力したいと思えます。

(若林)

◇有力な先輩がいるので心強い。始めての編集なのでカッテが解らなかつたが、これらの人達の指導により都合よく運んだようだ。もとも記事取材や編集などジャーナリストイックな仕事は不得意な

ので、これらの仕事が私に続けられるかどうか疑わしかったが、ここまでこられたのも皆さまのおかげだと思ひ厚く感謝するしだいで。中でも苦心したのは原稿を集めることでこれは記者や編集者の誰もが経験することなのであえて苦情もでない。(相倉)

◇十月五日が同窓会総会と決定して、会報「紫筍」の編集も一段と急ピッチで行われようやく発刊されるに至つた。原稿依頼をし、締切つたのが七月末、常ながら集り具合が芳しくない。同窓會員の親睦、消息通知の為の会報であるから、大いに振って投稿願いたいものである。次回は来年七月頃が締切の予定故、大いに自己の職場での経験談とか、本会への建設的な原稿も御寄せ下さい。

(H・K生)

◇赤電話のベルが鳴る、名簿作成の為母校から呼出しのベルが鳴る。どうゆう風の吹きまわしか、その時にきまつて私用がある、又

今日もベルがなった、料理講習と又もや私用、しかしそうもいえず午後九時を离校時ときめ母校に向つた。私の仕事は出来上つた会報の帯書き、しかし少しでも手伝が出来た事はうれしい、一人でも多くの方のお役に立てたらと……

島岡美登々

### 投稿規定

原稿を募集します。

送り先

東京都豊島区西巣鴨三の八五八

部立文京高等学校内

「紫筍」編集部

枚数 創作 一〇枚

その他 一枚し三枚

(四〇〇字詰原稿用紙による)

メ切 毎年六月七日

文京高校同窓会報第三号

紫筍

昭和33年9月25日 発行

発行 文京高校同窓会編集部  
編集 八洲印刷株式会社

印刷所 八洲印刷株式会社

